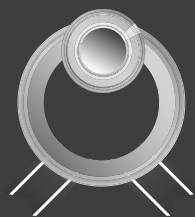


「第一線監督者の集い：名古屋」



最優秀事例賞 インタビュー



ダイハツ工業株式会社

本社（池田）・京都工場

工務部 生産管理室

職長 広田 愛 氏

受賞をきっかけに 社内でも発表

--- 受賞おめでとうございます。本日は受賞者の広田さんと職場のみなさんにお話を伺います。最初に、広田さんのお立場と業務内容を、今一度、教えてもらえますか。

(広田) ダイハツ工業株式会社 池田工場、梱包管理グループで職長を務めさせていただいています。

私が所属しているノックダウン工場は、海外の車両工場へ送る部品の包装をするのがメインの業務になります。海外工場が現地では入手できない部品を日本から出荷しています。海外で新しい新車種が立ち上がった時に新しい部品の梱包仕様を決めています。グループのメンバーは私を含めて13人になります。

--- 今回、「第一線監督者の集い」で発表することになったきっかけは？

(広田) 上司の満留さんから打診を受けたのがきっかけです。

ちょうど私の妊娠がわかった時期だったので、「大会に出てみたい」という気持ちもありながら、不安にも思いました。

「参加する意義がある大会だ」というのは周りから聞いていたので、「是非参加させてもらいたい」と思い、旦那さんとも相談して、参加を決めました。旦那さんは同じ工場にいますが、育児を手伝ってくれていて、今も育児を取ってくれています。

(満留) ダイハツには国内に4つの工場があります。滋賀に2工場、京都、そしてこの池田工場です。「第一線監督者の集い」では、4つの工場が持ち回りで発表するようにし



ダイハツ工業株式会社
本社（池田）・京都工場
工務部 生産管理室
職長 広田 愛氏



ていて、今回は池田工場が発表するタイミングだったのですが、広田が女性の職長として活躍しているので、「ぜひ発表してほしい」と昨年2019年1月に打診をしました。その時に妊娠していることを知りましたが、彼女も「発表したい」ということで快く引き受けてもらえました。

広田が勤めているノックダウン工場は私が課長を努めていたこともあるのですが、車両工場に比べて、注目されにくい部署です。発表を通じて、ノックダウン工場働く女性職長に光を当てたいと考えました。「ノックダウン工場の社員のみんなにも注目してもらいたい」という思いがあったんです。本人とは「参加する以上、必ず受賞をする」という約束をしました（笑）。

--- 受賞した時はどんな気持ちでしたか？

（広田）発表を終えた時の正直な気持ちは「やっと終わった」でした。準備の段階から力を入れて資料を作り、プレゼンの練習をしていて、とても大変だったからです。

「やっと終わった」と思ったら、受賞のおかげで、その後もいろんな場所で発表をすることになりました。

ダイハツ工業の中で興味を持っていただいた方がたくさんいらっしゃって、「私たちの部署でも是非発表の内容を聞きたい」ということで、発表させていただくことになったんです。

京都工場でも発表させていただきました。滋賀工場でも発表する予定が控えています。

（満留）受賞をきっかけに社内のいろんなところから「発表内容を聞きたい」というご要望をいただくことになりました。

発表を通じて、ノックダウン工場に「光を当てる」ことが狙いだったのですが、それが実現することになったんです。

社内でも評判になり、ノックダウン工場を広く知ってもらえることになりました。

弊社の会長、社長にも今回の発表を聞いていただくことになり、大変感銘していただきました。社長からは「参った」というお言葉までいただきました。

女性活躍は時代の流れ

—なぜ、発表された活動は成功できたのだと思いますか？

(広田) 時代の流れに合っていたからではないでしょうか。

女性らしさを発揮できるような環境を作って、個人それぞれの「らしさ」に焦点を当てたわけですが、もし、時代に合っていないならば、うまくいかなかったと思います。私がやろうとしたことがちょうど時代の流れと一緒にだったということだと思います。

以前、育休後に仕事に復帰できず、会社を辞めることになった社員がいました。本人は、仕事を続けたかったのだけれども、働ける場所がなくなってしまったからです。そのことがとても印象に残っています。今はもうそういう時代ではありません。

会社にとっても、人は財産です。仕事ができる社員が辞めなければいけないというのは、すごくもったいないことです。

周りの環境にも恵まれていたのだと思います。上司の方にはいい人ばかりです。もちろん



ダイハツ工業株式会社
本社（池田）・京都工場
池田製造部
部長 満留 寛 氏



ダイハツ工業株式会社
本社（池田）・京都工場
工務部 主査
池田生産管理室
室長 松島 浩三 氏

ん、怒られることもたくさんありますが、それが逆に良い刺激になっています。私が「これをやりたい」と言っても、「これはこうした方がいい」と的確なアドバイスをしてくれます。すごく協力的な上司ばかりです。職場にも上司にも恵まれていたから成功できたのだと思います。

--- 上司の方にお聞きします。なぜこの取り組みが成功したのだと思いますか？

（奥村）広田さんはコミュニケーションが上手だからだと思います。

高齢の社員が増えている傾向にあるのは、どの製造現場でも同じだと思いますが、特に私たち、ノックダウン工場には高齢の方や女性が多くいます。

広田さんはそういった年配の社員とコミュニケーションする能力に長けています。人財を

活かすことができるんです。

定期的に行っている部署間の発表会でも、彼女が会合を取り仕切る役割をしてくれています。会合ではグループの困り事などを共有していますが、ホスト役として意見の取りまとめをして、工場全体を良くしようとしています。

（松島）彼女自身が強い信念を持っているから成功したのだと思います。発表の中でもありましたが、「あれもしたい」「これもしたい」という明確な目標を持って行動をし、いろんな失敗も経験していったからだと思います。

自分の思いを反映できる職場に出会えたのも良かったのでしょうか。それに、周りの社員にも支えられました。本人の努力と周りの環境の両面があって、成功したのではないのでしょうか。

私たちが注意しないといけないのは、社員全員が今回と全く同じようにできるわけではないということです。社員それぞれに個性があって、それぞれの「らしさ」を持っています。みんなそれぞれが自分なりの方法でできるようにするには、どうしたらいいのかを考えなければいけないと思います。

（満留）発表を聴きにきていた社員の中からは「私には無理です。とても同じことはできません」と言われました。

広田と全く同じようにする必要はありません。広田とは違う別のやり方で、広田の後に続く社員が出てくることに期待をしています。ここにいる入江もその一人です。

今回の発表は社内の変革のきっかけにもなったと思います。今後はさらに女性の監督者を増やしていきたいと考えています。

広田と同じ考えを持つように人を育てていくつもりはありません。お話しした通り、一人一人に個性があって、考え方も違います。監督者になることにこだわらない人もいるでしょう。その人個人個人を尊重しながら、適した職場を提供していくことが重要なのだと思います。



ダイハツ工業株式会社
本社（池田）・京都工場
工務部（池田）生産管理室
第2係（KD工場）
係長 奥村 正二氏

個性に向き合い 働きやすい職場に

--- 今回の発表を通じて、広田さんが学んだことはありますか？

「らしさ」をテーマにして、発表させていただきましたが、メンバーの個人個人に向き合い、それぞれの個性を尊重することの大切さを改めて認識することができました。

もともと、この活動は発表のために始めたわけではないのですが、資料を作っていくうちにその大切さを再認識することができました。「こういったことを進めることで、働きやすい職場になっていくんだ」と実感を強めていきました。

--- 広田さんはジェンダーの壁を乗り越える

ことができたわけですが、乗り越えられない方もいると思います。その差はどこにあるのでしょうか？

私はすごい負けず嫌いなんですよ。人から「できない」と言われたら「できないことなんてない」と思うんですね。「ほら、できるでしょう」とやって見せたいと思ってしまいます。それが乗り越えられた理由だと思いますね。自分ができないことは他人に言いません。自分から口に出したことは必ずやりきる。そうすることで信頼関係が生まれます。

(満留) 現場の第一線でチームを引っ張っていかうとする人は、そういう人が多いです。監督者は強い信念を持って自ら行動をしないと、部下には伝わりません。

--- 同じ職場の入江さんは今回の発表を通じ

ダイハツ工業株式会社
本社（池田）・京都工場
工務部 生産管理室
入江 美里 氏



て、どんなことを学びましたか？

(入江) 大事なのは、やりきることだと思いました。途中でやめてしまったら、周りの人たちにも「なぜ？」と思われてしまいますよね。自分ができるということを見せるチャンスでもあると思います。

(広田) 今は各組に女性メンバーがいて、リーダーの役割を果たしてもらっていますが、入江には検査のリーダーをしてもらっています。私がおこなった活動内容を自分なりにアレンジして「らしさ」を伸ばしていく活動を進めてもらっています。

--- 「らしさ」を引き出すために、どのようなことに注意していますか？

(入江) あんまり深く考えて行動するタイプではないのですが、自然体を心がけています。その人の言っていることを聞いて、一緒に考えるようにしています。

(奥村) 彼女のいる検査の部署は、一番女性が多い部署になります。その中で一番年下なんですけど、班長という役割を担っています。自分の意見を押し付けるばかりでなく、先輩の意見も取り入れる。ダメなことはダメとはっきり言います。そういうふうにコミュニケーションをとりながら、一緒になってやっていってもらっています。

--- 広田さんの今後の目標を教えてください。

(広田) 今回の発表は女性らしさがテーマで

したが、うちの職場は高齢者の方やハンディキャップを持っている方が多いので、そういう人たちもイキイキと働いていけるよう、工場全体を「らしさ」で包められるようにしていきたいです。

まだはっきりとした答えは出ていないですが、そういう方向で今後も進めていきたいと思っています。

--- 「第一線監督者の集い」へ参加を検討している方へのメッセージをお願いします。

「発表をしてくれ」と言われた時は、「自分で大丈夫かな」と思うのではないかと思います。「第一線監督者の集い」は大きな大会で、たくさんの人の前で発表することになりますから。

でも、実際に発表に取り組んでみると、すごく自分のためになります。

考えをまとめ、資料を作るところもそうですし、他の企業さんの発表を聞くことで勉強になり、繋がりもできます。自分の財産になるし、それを会社にも持って帰ることができません。

参加する意義は大きいと思いますので、悩んでいるのだったら、まずは参加するべきだと思います。



社員も Light you up

--- 満留さんにお聞きします。御社の人財育成に対する考え方を教えてくださいませんか？

(満留) ダイハツには、「Light you up」というスローガンがあります。この言葉はお客様だけではなく、ダイハツで働く人々にも向けられた言葉です。

社員それぞれの経験や能力をダイハツというフィールドで、思う存分発揮してもらいたい。「Light you up」の「Light」には、「光」「軽やかさ」の2つの意味があります。会社として一人一人の「個」に「光」を当てていこうと考えています。

池田工場には、約1600名も社員がいます

から、どうしても注目されにくい部門もあります。それは普段、陽の当たらない裏方の仕事をしている部門です。

例えば、保全や運搬の業務です。保全で言えば、うまく設備が動いていて当たり前なので、故障すると「早く治してくれ」となる。工場が稼働している間はメンテナンスができません。工場が休みの時に出勤して、整備するしかありません。

池田工場は来年で60年になります。そういう古くから続く工場で、品質No.1を実現するために、影で努力をしてくれている人たちがたくさんいます。

だけれども、そういった人たちに表舞台で光が当たることは、なかなかありません。光が当たる場を作ることで、少しでもモチベーションを上げたいと思っています。

女性に関しても同じことが言えます。工場に

いるのはほとんどが男性なので、女性に対する理解が不足しがちです。

しかし、今回の発表を聞いてもらえれば、女性ならではの特質を理解してもらえでしょう。今回の発表は、男性社員がそのことに気づききっかけになったと思います。

これから、ますます社会全体が高齢化していきます。人財が不足しますから、今よりもっと女性に活躍してもらわないといけません。そういう意味では、広田が職長までなってくれて、あのように発表をしてくれたのは、私たちの工場に「光」が差しかけているということだと思います。

ようやく女性や高齢者が活躍できる職場環境の土壌ができてきた。これからだんだんと良くなっていく、その礎（いしずえ）になってくれたのかなと思います。

今回は広田が「第一線監督者の集い」で発表することになりましたが、今後は、社員みんなが自分の活動をアピールできるような場を社内にも作っていきたくて考えています。活動を発表してもらう機会が定期的であればいいのですが、現時点ではそういう場がありません。負担になってはいけませんが、社員が頑張っている姿をアピールできる場を設けることで「個」に光を当てていきたいです。人財育成には、これからもこだわり続けたいと考えています。



「第一線監督者の集い」 は課題解決のヒント

→ 最後に、みなさんに、「第一線監督者の集い」に参加された感想をお聞きしたいと思います。

(広田) 何百人規模の会場で発表するという経験がなかったのですが、こういう経験をさせていただき、自信に繋げることができました。大会の後に、他の工場でも発表をさせていただくことになりましたが、その発表でも自信を持って発表をすることができるようになりました。大会に参加することで、資料作成やプレゼンテーションのスキルも上げることができたと感じています。

これまでプレゼンテーションの資料を作成したことはなく、一番最初に作ったものはQCサークルで発表するような資料でした。上司に怒られながら、教えてもらって資料を作ったのですが、その作業もとても勉強になりました。資料作りにも自信を持てるようになりました。

(満留) 第一線監督者それぞれがいろいろな悩みを持っているわけですが、この大会での発表を聞いていると、共通している部分があると感じます。それはやはり「人」です。AIやIoT等の技術が進化していますが、企業を支える根本は「人をいかに育てるか」だと思います。

社員が成長することでその企業も成長することができます。どの企業も同じ課題を持ちながら、それに取り組んでいることがこの大会に参加するとよくわかります。

この大会では、そのことを理解することができ、なおかつ、解決するヒントを得ることもできます。

高齢者や障害をお持ちになった方の雇用が増えている中、苦勞することも増えていると思います。日本の製造業が抱える課題なのかもしれません。その状況の中で、広田の発表が他の企業さんにとっても、少しでも参考になれば嬉しいですね。

(松島) 監督者にはいろんな個性があって、いろんな悩みを持っています。

でも、最後に通じるところは「人」です。監督者が壁にぶつかって苦勞していることがこの大会でよく分かります。そういったことがよくわかる優れた大会です。

その大会で広田が賞をいただけたのは、彼女にとっても、非常に良い経験になったと思います。これからも継続して開催してもらいたいです。

(奥村) これだけ大きい大会ですので、参加する側は生半可な気持ちで参加することはできません。

本人が一生懸命取り組む姿を見てきましたが、周りの協力なしには実現できませんでした。

その協力もあって、賞をいただくことができたわけで、受賞をきっかけに現場のチームワークはさらに強くなりました。

また、他の企業さんの発表を聴かせていただき、とても勉強になりました。私自身も良い経験になりました。

(入江) あそこまで大きな大会の発表を聞く

のは初めてだったので、とても勉強になりました。

他社さんの発表を聞いて、自分の職場とは違う考え方に触れることができたのも、良い勉強になりました。いろんな人の考え方を聞いたので、自分も進んで取り組んでいきたいと思いました。

--- 貴重なご意見ありがとうございます。本日はお時間いただき、ありがとうございました。

